

「選ばれる会社になる」 働き方改革の ポイント①-7

いりどり社会保険労務士事務所
代表 内川真彩美氏

「残業が発生する」人件費が増える」という意識が会社にも芽生え始めました。

さらに、従業員を増やし始めます。「残業や休日出勤が発生するくらい仕事量が多いなら頭数を増やそう」と考えたのです。しかし、従業員を増やしても、社内の状況は思ったように改善されません。そこから「業務に偏りがあるのではないか」「業務の流れが滞る場面があるのではないか」と、業務のやり方にそのものに問題があることに気づきます。

そこで「従業員がなぜ残業をしているのか」を追究しました。各従業員に今抱えている業務の詳細や残業が多い理由等をヒアリングしていくと、問題の根源が次第に見えてきます。その結果をもとに、効率化できる部分はない

「当たり前」の打破に向け IT導入等で業務効率化

か、再分配ができる部分はないかを分析し、1つずつ対応していきました。

「行き当たりばったり」ではなく現状分析が必要にその分析の中で、「データの再利用や自動化ができればもっと業務の効率化ができるのではないか」と考えます。そこで次に取組んだのが、ITツールの導入やペーパーレス化です。

ITツールの導入を主導したのは、市川社長自身です。現在、多種多様なITツールが存在しています。チャットツール1つとっても、何を選べばよいか迷うほどの種類です。ツールの選定の際、市川社長は「みんなが使ったことがあるものに似ているものを選ぶ」という市川社長自身がまず試してみたいことに合つかを判断すること」を大切にしました。「ITツールを導入する

際には抵抗を感じる人もいるため、少しでも抵抗がなくなるような配慮をしたかった」と市川社長は言います。

ペーパーレス化では、紙で管理していた情報をExcel等に置き換え、複数人でのファイル共有化や、作業の自動化を進めました。これに関しては市川社長が手を動かしたのではなく、このような作業が得意な人材を雇って一緒に推進したそうです。働き方改革が進むと、採用もしやすくなります。須崎青果では、働き方改革が進むような技術を持った人材を雇えるようになったことで、改革のさらなる好循環を生み出しています。

市川社長の働き方改革の方法は、決して行き当たりばったりではなく、「現状を分析し、見つけた問題に対応する」という非常に理論的で着実な進め方だと感じます。

次回は、これらの取り組みの結果、須崎青果がどのように変化したかを紹介します。(月1回掲載)

読者からのご相談受付中!

須崎青果のような現状分析支援も対応! 働き方改革でお悩みの点など、事務所ホームページ(<https://www.irodori-sr.com>)よりお問い合わせください。

いりどり社会保険労務士事務所 代表 内川真彩美氏

特定社会保険労務士。約8年半、IT企業でシステム開発に従事した後、社会保険労務士として開業。現在は前職の経験を活かしながら、企業の制度設計や働きやすい組織作りの支援を行っている。



企業ウェブ サイトや雑誌などへの執筆 講演 多数。

の数年はわずかながら最終利益を出して赤字を免れていたが、それは「建前上」。賞与は何年も支給されていなかったうえ、市による経営改善指導も行われていた。年末の突然の事態に、市

量には届かないため、仲の直荷引きや仲間同士の荷で補っている。大手仲卸数はすでに外からの仕入れルート構築しており、影響はそれほど大きくないと思われる。

地理的表示制度 Q

GI図鑑

青果物編 1

◆地域との結びつき

1965年に弘前大学教授がドイツで、青森の気候に適するであろうと苗木提供の申し出を受けて導入。品種改良せず、当時の品種のまま地域で守り育ててきた。

江戸崎かぼちゃ (15年12月登録)

大張×口× (15年12月登録)

関西で卸破綻続く

バックナンバー CHECK

関西の卸売業界は、ここ数年、大きな変化を遂げている。特に、卸破綻の件数が増えている。これは、卸売業界の構造や競争環境の変化によるものと考えられている。また、デジタル化の進展も業界に大きな影響を与えている。今後の業界動向は注目に値する。